



田代貯水池視察中の一行

## 新鹿澤温泉に於ける 土木學會の群馬縣視察旅行

6月22日午前11時35分上野驛發午後2時27分澁川驛着、少憩の後、20人乗の省營バス5臺に分乗して澁川町を通りぬけ、吾妻川沿岸の縣道を上流へと進みました。

途中では車内のバスガールにより所々の名所古蹟を面白く説明されますので、殆んどあきる程の事はありません、午後3時すぎ天神澤の砂防工事場に下車して、堰堤工事を見學しました、群馬縣は先年豪雨のため各河川に甚大なる損害を被つたのでありますが、天神澤などは山崩れの災害が最も大なる箇所でありました、それが今日では天神澤だけでも13ヶ所に連続的に砂防堰堤が造られて、今後の豪雨には絶対安全を期してをります、平日は水が流れてないから砂防堰堤は恰度土留石垣の様に見えてをります。現場にて工事係員の説明を聞き、茶菓の饗をうけ少憩して、バスに乗り吾妻溪谷の清流に沿ひ上流へ上流へと進みました、幾つかの部落や發電所や舊蹟などを車窓から眺め乍ら、午後4時すぎバスを下車して新緑に包まれた絶壁の縣道を歩みました、數百尺の斷崖の直下を見ますと清流が岩に激してをります道路の右は又斷崖左の河向ふは直立せる山と山が連なり、深い新緑の樹木に満ちております。此邊リユクサクを負ふた學生などを見受けます。日曜日のハイキングコースには最も良い處です。我等は徒歩

10分間で又車中に入り、草津行電鐵路を越えて新鹿澤温泉に着いたのは午後6時でした。

新鹿澤温泉は數軒の旅館があるのみで他に人家はありません、淺間山に近い高原の淋しい旅館部落であります。部落の中央に一軒の獨立した共同温泉浴場がありまして、浴客は各旅館から出かけるのであります。此浴場も男女二室に分れておますが、極く粗末な木造建物で、温泉以外には清水の設備もありません。我々一行の宿泊した鹿澤館は當地では最新最大の旅館で、本館の外に3階建の堂々たる別館もあり、室數も2百餘、室内の設備も完全して、近代的浴室もありますが、温泉を引入れてないのは惜しい事です。

新鹿澤の特色は温泉よりも、展望の廣い高原のスロープです、今は満目新緑に満ち、遠近に鶯やカクコウ等の野鳥の啼聲が都人の旅情を慰めてをりますが、雪のシーズンには此の廣漠たる高原がどんなにか良いスキー場となることであらう。

午後8時頃から鹿澤館の大廣間で晚餐會が催されました、一同旅館の和服姿で和氣霽々たるものです、先づ主催者側を代表して群馬縣知事熊野英氏が立ち歡迎の辭を述べられました、熊野知事は先年帝

